

在日中国人留学生の異文化心理的適応に関する研究

—自己効力感とソーシャルスキルを中心に—

○黄静怡¹・上市秀雄²

(¹筑波大学大学院システム情報工学研究群・²筑波大学システム情報系)

キーワード：留学生、自己効力感、対人ストレスコーピング、異文化適応

A Study on the Psychological Adaptation to Foreign Culture Among Chinese International Students in Japan

—Focus on Self-Efficacy and Social Skills—

Jingyi HUANG¹, Hideo UEICHI²

(¹Degree Programs in System and Information and Engineering, University of Tsukuba,

² Faculty of Engineering, Information and Systems, University of Tsukuba.)

Key Words: Collage students, Self-efficacy, Cross-cultural adaptation

日本学生支援機構（JASSO, 2021）の「在日外国人留学生実態調査」の結果によると、中国人留学生は日本に在籍する外国人留学生の中で最大規模を占めている。中国人留学生が日本でどのような留学生生活を送るかは、彼ら自身の心身の成長だけでなく、日本社会の安定にも重要な影響を及ぼす。異文化適応過程において生じる対人関係上の問題に適切に対処するためには、中国人留学生の対人関係と異文化適応の状況を明らかにする必要がある。その上で自己効力感とソーシャルスキルが適応に与える影響を検討することが重要となる。そこで本研究では、在日中国人留学生の自己効力感とソーシャルスキルに着目し、対人ストレス対処および異文化適応との関連について質問紙調査により検討する。

方 法

調査対象者 在日中国人留学生 156 名に 2021 年 11 月に質問紙調査を実施した。質問紙に記入ミスがあったものと不完全な回答を除き、最終的に 153 名（男性 49 名、女性 104 名）のデータを分析対象とした。

質問項目 **基本属性**（専攻、年齢）、**一般性自己効力感**（坂野・東條, 1986）の 16 項目（行動の積極性 6 項目、何かをするときは、自信を持ってやるほうである、失敗に対する不安 6 項目：失敗したと感ずることのほうが多い、能力の社会的位置づけ 4 項目：友人よりも特に優れた知識を持っている分野がある）、**ENDCOREs ソーシャルスキル**（藤本・大坊, 2007, パーソナリティ研究）6 項目（自己統制、表現力、解読力、自己主張、他者受容、関係調整それぞれ 1 項目）、**対人ストレスコーピング**（加藤, 2000）の 12 項目（ポジティブ関係コーピング 5 項目：積極的に話をするようにした、ネガティブ関係コーピング 3 項目：話をしないようにした、解決先送りコーピング 4 項目：気にしないようにした）、**異文化適応尺度**（植松, 2004）の 28 項目（文化適応の 7 項目：日本の文化を理解している、学習適応の 7 項目：学習と研究の進行は順調である、対人適応の 7 項目：日本の人々との人間関係に満足している、心身の健康の 7 項目：心身共に良好である。上記項目は 5 件法（1. 当てはまらない～5. 当てはまる）で評定した。

結 果

対人ストレスコーピングの種類により自己効力感・ソーシャルスキルの異文化適応への影響メカニズムが異なると仮定し、ポジティブ・ネガティブ関係コーピングを媒介変数としたモデルを構築・検証した。分析の結果、自己効力感・ソーシャルスキル及び異文化適応に対して正の影響を与えることが確認された。Figure1 はポジティブ関係コーピングを媒介としたモデルの分析結果で、ポジティブ関係コーピングはソーシャルスキル及び異文化適応の全下位因子と正の相関を示し、自己効力感・ソーシャルスキルがポジティブな対人対処を促すことで異文化適応を高めるプロセスが明らかとなった。一方、Figure2 ではネガティブ関係コーピングは異文化適応の下位因子である心身の健康・学習適応と負の相関を示し、自己効力感の低さがネガティブな対人対処を引き起こして異文化適応を阻害するプロセスが確認された。

Figure1 ポジティブ関係コーピングを媒介変数とするモデル

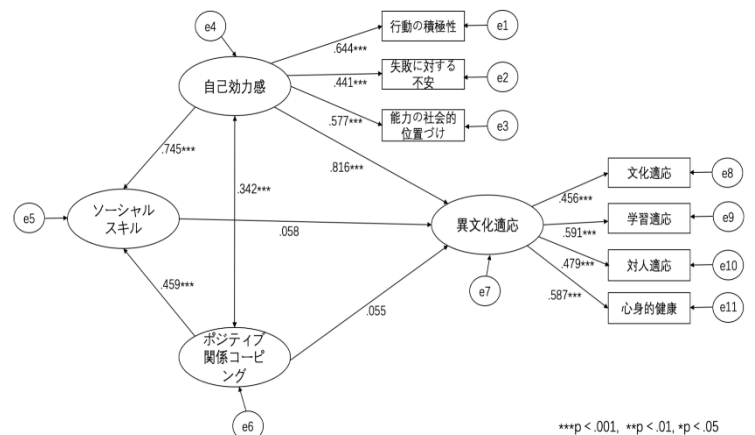
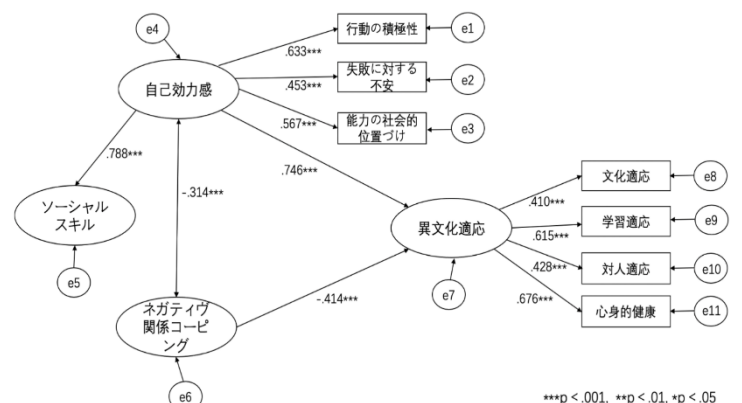


Figure 2 ネガティブ関係コーピングを媒介変数とするモデル



考 察

ソーシャルスキルや自己効力感に含まれる行動の積極性が、対人場面におけるポジティブ関係コーピングを促進し、異文化適応の中でも対人関係の適応を高めること、逆に、ネガティブ関係コーピングは異文化適応を抑制することが示された。さらに対人適応が向上することは、文化適応、学習適応、心身の健康といった異文化適応全体の向上にもつながることが示唆された。

これらのことから、在日中国人留学生の異文化適応を促進させるためには、自己効力感やソーシャルスキルを高める支援をし、対人ストレスコーピングを適切に用いることができるようにすることが重要であると考えられる。

今後、他の在日留学生に対しても検証する必要がある。

引用文献

- 坂野 雄二・東條 光彦 (1986) 一般性セルフ・エフィカシー尺度作成の試み. 行動療法研究, 12, 1, p73-82
加藤 司 (2000) 大学生用対人ストレスコーピング尺度の作成. 教育心理学研究, 48, 2, p225-234